



あま か 天翔ける民族舞踊文化

黛民族舞踊文化財団

理事長 黛 節子

馬の駈ける姿は本当に美しいと思う。古くから人間社会と共存し、人間の歴史の中に大きな影響を与えてきた動物。良きにつけ悪しきにつけ不思議な生き物だと思う。

今年は丁度午年。十二支では真南の方角に位置している。南とは気が盛んの極で、茂りに茂ることを意味する。正に馬の気質そのものといってよい。驥など微塵もなく陽気の塊といった感じである。従って伊勢神宮や厳島神社等、神馬即ち隆盛を意味する守りとして神にお仕えしている。

物事全て湿気を嫌う私には、性に合った性格といえる。

一方では馬齢を重ねるとか、馬脚を露わす等あまり芳しからぬ譬えもあるが、でも私は最初にも述べた通り、馬の走る姿を見ていると、その見事さと、ひたむきさに言い知れぬ感動をおぼえる。そして明るく、且つデリケートな性格を兼ね備えていることにも、たまらない程の魅力を感じる。自分が舞台へ立つ人間の故か、馬のもつ派手な性格は、大いに見習うべきところ

があるように思う。

1990年。今世界は大きく変わろうとしている。この波瀾に満ちた世界情勢の中で、財団も発足以来四年目を迎えようとしている。

理事長という大任あるお役目を頂いているからには、民族舞踊文化を通して、確たる見通しと、運動の指針を明確にしてゆかなければならないと思っている。

あらゆる面で国際化が大きく叫ばれている今日、先ずは日本に深く根づいている島国根性を払拭する努力が大切だと思う。その為には、個々の文化の持つ特性を知り、グローバルな視点で物事をとらえることが必要である。

国あるところに人種あり。人種あるところに個々の文化あり。今こそ当財団は、神馬にも劣らぬエネルギーをたぎらせ、民族舞踊文化の為、天翔けるべきときだと考える。

平成二年二月二日 ——旧七草の宴——

黛民族舞踊文化財団では、新年の一月七日には“七草の宴”と稱し、日本最古の宮と云われる奈良・布留の石上神宮・新嘗の神事に参加し、神饌としてお供えした新米を頂いて参り、それをお粥（このお粥の美味な理由は秘密）として黛節子宅で裁った七草を添えて召し上がって頂くのを年毎の吉例として居ります。これは言うまでもなく皆様の御健康を祈り、その年も福あれかしと願って祝うものでございます。

今年は黛節子不快の為一月七日にはお祝い申上げる事が出来ませんでした。然し丁度二月二日は旧七草に当たりましたので改めてとり行わせて頂きました。今年は、安本工学博士の御厚意により、縄文時代に日本に渡ったと云われる“あかごめ”そのものを御寄贈頂き、赤粥をも添えることが出来ました。

黛理事長の挨拶

皆様ようこそお出ましくございました。

暮から正月にかけてとんでもない御心配をおかけ致しまして、私その申し訳なさでよい熱がでてしまった(?)感じて御座います。肺炎という名がついてしまいがちながらも主治医の大変温かいお心ばかりのお陰で今日こうして、皆様にお目にかゝる会をもてました次第でございます。

昨日は美しいものが降りました。—2月1日の大雪—

「雪は豊年のしるし」と農耕民族であった私達の祖先はこんな言葉を残してくれました。

“米”に命をかけた私達の祖先は今では考えつかないような貧困な生活のなかに居ながら雪の冷たさを忘れて清烈な雪に感謝をしたのです。

感謝と同時に豊年になれかしと祈願をしたのです、その心情が今日日本に残っている民俗芸能の底辺には流れているのです。その民族芸能をどうやって民族舞踊にまで昇華し世界にはばたかせることが出来るか。世界の人々が、あー日本人とはこういう生き方をした人種なのだなーこういう生き方の人がそういう踊りを残して行ったんだなーと感動してくれる、理解してくれる。それが、私ども財団のところで御座いますし私がやって行かなければならない仕事だと思います。

日本の民族舞踊が高められ、世界化される。そういう仕事の為に今後絶対肺炎になどならないで頑張っていきたいと思います。もう一つ財団からお知らせが御座います。

IOVと申しまして、世界民族芸術組織の本拠がウィーンに御座います。これは私が永年友好交流をさせて頂いて居る中国、その中国の舞踏家協会の副主席賈作光先生と雲南分会の劉副主席のお二人(どちらもマドンナです)のご推薦によりまして本格的にその実行部の会員になることが出来ました、これは私に取って願ってもない大きな喜びであり大きなプレゼントで御座います、その組織には世界120余ヶ国が入っております、財団は120

旧七草であるにもかかわらず、いつも御出席下さる方々に、更に新しいお顔も加わって下さいまして大変盛会にさせて頂きました。厚く深く感謝申し上げます。

尚当日御出席の皆様から頂きました御言葉をここに載せて頂きました。



赤 米

余ヶ国の民族芸術にたずさわる方々とお友達になれたので御座います、こんな幸な事が御座いますでしょうか、1990年からこういう方達とお知り合いになって日本の民族性を理解して頂き、やがては民族舞踊文化としても大きな交流の場になるよう努力して行きたいと思います。今年はきっと皆様に御無理やら御迷惑やらをお願いに上りますが今後共よろしくご指導御支援をお願い致します、本日は大変有りがとう御座いました。

山脇先生の御挨拶

只今ご紹介にあずかりました、山脇でございます。

本日は足場が悪い日にもかかわらず沢山の方々がお見えいただきまして私も理事の一人として僭越ながら皆様の代わりとしてお礼を申し上げます。

それから次にまず最初に大きな病気から立ち直りました黛先生の、本当に御元気な姿を拝見致しまして大変嬉しく存じます。これからも御元気で御活躍下さるよう心からお願い致します。所で今黛先生ご自身が発表されましたように1990年は国際的に世界が荒れ狂って飛び歩く時であります。ここに章参事官が見えておられますが章参事官も黛先生にとって一番の交流の基盤でもある中国での色々な窓口で、御親切にご指導されて居られる章先生ですが、今日おいで下さいましてありがとうございます。



山脇亀夫氏

又その外にも黛財団又黛先生の以前から陰になり日向になりご援助申し上げ又相談のお相手になって下さっている立派な方々が大勢見えられておりますが、本当に今後の黛先生の飛躍、従来のいい仕事を更にもっと続けられるように、今日は黛先生の御病気の御快復と、もうひとつ七草の行事を今日、新節、春節の正月を盛大に迎えられている中国のこの時にちなみまして、どうしてもこの七草のお祝いをなされる強い御決心は、黛先生があくまでも皆様の約束を守られて色々な事に努力なさっておられる態度の表れの一つであります。

昨年は丁度昭和天皇の御不例の時にわたりましたが、やはり黛先生は追悼の意を含めた会をお開きになりまして見事な七草の日をお迎え致しました。

今日改めて2月の良き日にこの七草の日をお迎え頂き、又この様な御馳走とか名物のお粥を並べて頂き誠に私自身も感謝しております。

皆様もどうか感謝の心をお持ち頂き乍ら黛先生のこれからの良いお仕事にお手伝いして頂けるよう、又ご鞭撻くださるよう私も理事の一人としてお願い申し上げて御挨拶にかえさせていただきます。

財団日本文化財団 常務理事

財団黛民族舞踊文化財団 理事 山脇亀夫

加戸先生の御挨拶

それではご指名でございますので、僭越でございますが乾杯の音頭を取らせていただきます。

毎年この会にお呼び頂きまして楽しみにしております。

今年黛さんの御病気と聞いて心配しておりましたが、御快復されつつがなくこの会をもてましたことを皆様と共に喜び申し上げます、黛先生は日頃から日本人の心を民族舞踊に託しお仕事を続けておられる訳であります。

今日頂く七草の粥を頂戴するのではなく、黛先生の心を頂戴する積もりであります。

私自身も教職員の福利事業として300人の方々を対象とする事業で御座いますが黛先生のお仕事、黛民族舞踊文化財団のお仕事とは、日本人の心と福祉の仕事だと思ひますし、先生がますます御元気で継続されますよう、そして御参会の皆様の御健勝を心から記念して杯を上げたいと思います。

公立学校共済組合 理事長 加戸守行



加戸守行氏

章先生の御挨拶

黛節子先生のお元気な姿を見て非常にうれしく思っています。完全に回復されるように心からお祈りしております。

先生は日本の有名な舞踊家であり、そのことは日本のみならず中国でも高く評価されています。

先生は中日両国の文化交流を、特に両国の舞踊の芸術を重視しておられます。私たちは先生に心からの感謝の意を申し上げます。

今年は午年です。馬は中国では力と成功を表象しています。午年の始めに、皆様と御一緒に七草の宴を楽しむことができて非常にうれしく思っています。今年が皆様にとってたいへんよい年でありますように、そして皆様とその御家族の御健康をお祈りいたします。

どうもありがとうございました。(日本語)

中華人民共和国 駐日本国大使館 文化担当 章金樹参事官
(ご挨拶順)



章 金樹参事官と通訳の殷宏川さん

古代日本に於ける異族 隼人舞の復元

古代日本には数多く異族が住んでいた。例えば、宗像族、安曇族、蝦夷、熊襲、古志人、隼人等々…

夫々の文化の一つとして固有の舞が伝わっているといわれているが私達にとって心ひかれるものに細男舞（現在奈良若宮の御祭りの折にその片鱗を見る事が出来る）及び隼人の隼人舞がある。隼人舞は九州南部、及び沖縄、遠くはアウストロネシア（南島）にも源流はある(?)といわれる。

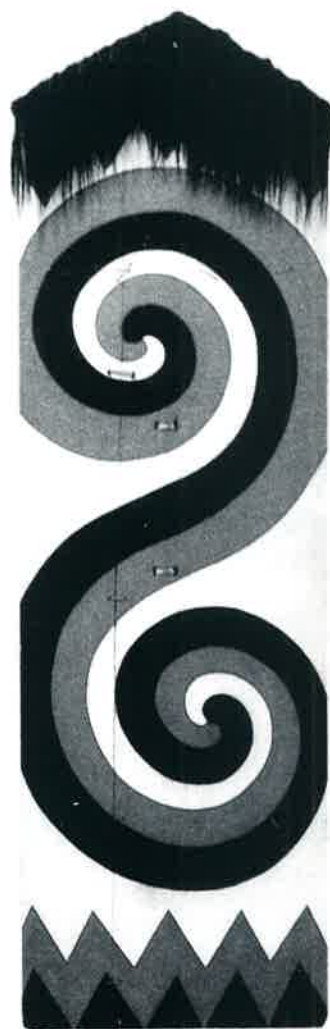
では隼人とは何か？

古代に北九州及び畿内の古墳文化とは異なる文化が南九州に存在した。その担い手が隼人であるといわれている。聞くとところによると隼人は5世紀頃大和朝廷によって服属させられた。原住隼人は現地に残り、その子弟を人質のような形としてさし出したようである。大和朝廷はそれ等の隼人を朝廷の守護にあたらせ、それを近習隼人と呼んだ。その服属儀礼として狗吠（くはい）、及び隼人舞が成立した。

今、九州の或る地方には隼人舞と称する舞が残されているがこの舞は服属儀礼としての隼人舞の名残かあるいは現地隼人族により伝承されたものであるか、その研究がこれからなすべき当財団の仕事の一つであろう。その結果を、古代日本に於ける異族“隼人”の残した隼人舞として復元発表する心組みである。



隼人塚



隼人の楯

出雲の阿国

1990年7月東京グローブ座公演

芸、特に“かぶき”に関係ある者なれば、出雲の阿国の名を知らぬ人はないであろう。彼女は日本の歌舞芸術ある限り、不死鳥的存在の女性である。彼女の出生その他は不明に近いが、日本史年表によると、西暦1607年2月20日、出雲阿国江戸城に於いて“歌舞伎踊り”を演じ家康、諸大名ら、観劇する、又市民に縦覧を許可する と書かれているが、それを最後のようにして消息を絶っている。

一方 西洋のカブキといっても過言ではないシェイクスピア劇、数多い戯曲の生みの親シェイクスピアと阿国とは、ほぼ時代を同じうしている。偶然とはいえ、今から約400年の昔、はからずも東と西に現われた二つの巨星。私は大きなインスピレーションを受けた。シェイクスピア劇を常打ちと銘打つ東京グローブ座の出現により、その劇空間を使って東西文化のクロスオーバーを想いたったのである。しかもこの劇場の舞台と空間は女性が踊るに相応しい格好なものなのである。そして私の願いと夢は叶えられたのである。

来る7月18日～20日迄 不死鳥阿国を上演のはこびとなった。舞踊家にとってこんな楽しいことがあるであろうか。

三味線を弾く女(孔雀の女)



出雲の阿国 花念仏 黛 節子

長い年月、私は日本の各地に点在する、阿国の時代の芸能を取材し、復元を試みている。それ等の作品の中から更に磨きをかけ、燃焼度の高い作品をお見せしようと思っている。それに加えて初期浮世絵に残っている“三味線を弾く女”と“おらんだ万才”を加えたいと思っている。

“三味線を弾く女”は三味線芸術（倅にして私の父は常磐津三蔵といって三味線の名手といわれていた。勿論江戸三味線である。父の三味線の、うなり、切れ味、小ばちさばきの巧妙さは今でも私の耳の底に残っている）の源流を阿国に託したいと思う。然しあくまで阿国時代のものとして復元を試みたい。又、おらんだ万才、これは今や現地には跡かたもなく消えてしまっているが、日本各地方の万才芸能を元としてあの時代に日本にきた外人（主としてポルトガル人）の言葉を借りて、おらんだ万才に仕立てたいと思っている。楽しい芸術創りは苦勞と共に倅一杯である。

——節子——

The
INTERNATIONAL ORGANIZATION OF FOLK ART (IOFA)

presents itself:

The International Organization of folk art (IOFA) is the only extensive world-organization which is intensively active in all questions and problems concerning folk art and folk culture.

It is the organization

- for folk art and folk culture (preservation, cultivation, promotion and reasonable transmission)
- for international understanding and for active work in order to promote peace in the world
- for co-operation in order to realize the program of UNESCO
- for all peoples of the world, irrespective of race, sex, tongue and religion
- for science and research
- for the promotion of national and international folk art festivals
- for all non-governmental associations, for institutions, museums and individual persons who work in practice, in science and in organizations for folk art and folk culture
- for friendship, solidarity, humanism, ethics and easthetics
- for the international exchange of experience, information and documentation
- for the promotion of exchanging folk art groups between all countries of the world

Dear Chairman Mayuzumi:

Thank you for your letter dated June 20, 1989. I am very pleased to learn that the Mayuzumi Foundation wishes to join our worldwide organization, and it indeed is a great honour and privilege for us.

I would like to refer to my letter of May 17 in which I expressed my interest that you or another person of your organization takes over the representation for Japan in our World Presiding Board.

For your information, the next meeting of the IOV World Presiding Board will take place in 1990 and is most likely to be held in New Zealand.

Again, I thank you for joining our society, and I am looking forward to a fruitful co-operation.

Yours sincerely,

黛理事長殿

本年6月20日付貴信拝受しました。黛財団が当国際組織に加盟を希望しておられることを歓迎し、光榮に存じます。

私は5月17日に送った手紙でも申し上げたように、あなたあるいはあなたの財団のどなたかが、私たちの国際理事会の日本代表になっていただきたいと思います。

ご参考までに申し上げますと、IOV国際理事会の次回会合は1990年に開かれることになっており、場所はニュージーランドになるでしょう。

あなたの入会に再び感謝を申し上げ、実りある協力を願っております。
敬具

中国舞踏家協会副主席賈作光女史
薦により1989年6月に国連ユネスコ
（組織）に加盟致しました。日本を代表
く、世界の民族が残した各国の民族
として歩みたいと念じて居ります。

ここにIOVからの書簡を皆様にお



Dear Mr. Director General,

Thank you very much for your letter of April 13, 1989.

During my recent visit to China I met with Ms. Lju Jin Wo and it was to my attention that you have great interest to initiate a collaboration with our worldwide organization. We also make a point of active co-operation, and we feel that your personal and/or society's ship in our organization would be mutually beneficial.

I am enclosing herewith the relevant documents, and I heartily invite to become a member and to collaborate with us.

In 1990 the election of our World Presiding Board will be held, and take great interest that Japan is represented in this Board. Would you willing to undertake such a function in our Board?

I am looking forward to receiving your kind reply, and anticipate a collaboration.

With best wishes and regards.

Yours sincerely,

理事長殿

4月13日付貴信を感謝します。

最近、中国を訪問し、リュウ・ジン・ウォ女史と会い、あなたが世界的組織に加盟することに強い関心をお持ちだということを知り、私共も日本の活発な協力を求めており、私共の組織にあなた、あるいはあなたの団体がメンバーになることは、双方に利益を与えるものと考えております。

及び雲南分会副主席劉金吾女史の推
の機関であるIOV（国際民族芸術組
して舞踊文化の上に大いに役立ちた
舞踊と共に日本民族の世界化を目指
目にかけましょう。



brought
ing re-
lapan's
member-

私はここに関連文書を同封するとともに、心
からあなたがメンバーになり私共に協力して下
さることを勧誘します。

you
e would
u be
ruitful

1990年に、私共の世界執行委の選挙が行なわ
れることになっており、私共は日本が執行委に
代表を出すことを期待しています。あなたは執
行部で活動なさることを希望しておられます
か？

私はあなたの返事をお待ちし、有意義な協力
を期待しております。

敬具

アレクザンダー ファイグル
IOV事務局長

私共の
とした。
いは、
考えて

黛理事長様

2月6日付 ファックスありがとうございました。

黛民族舞踊財団はすでに1989年6月、当組織に加盟しており、私たちはあなたが個人会員になると決めたことを喜んでます。

会員カードについてはパスポートサイズの写真を一枚必要とします。

私は、私たちのメルトリックにある本都であなたと話し合いたいと願
っています。私たちは渡航費、滞在費を、オーストリア国内の交通費と
ともに負担したいと考えています。

もしあなたが来れるならお知らせ下さい。

敬具

事務局長アレクザンダー ファイグル

1989年11月8日

黛理事長様

1989年9月22日付のお手紙ありがとうございました。私は、あなたが世界
理事会（World Presiding Board）の日本代表に就任する意志があること
を知り、うれしく思いました。残念ながら次の総会の確実な日取りが決ま
っておりませんが、決まり次第お知らせ致します。さらにまた、この件に
ついてのお知らせをその度ごとに郵送いたしましょう。

私はあなたの照会により、ここに日本のIOV会員リストを同封いたしま
す。この機会にお頼みしたいのですが、日本で新しい会員を開拓してい
ただけないでしょうか。会員は個人でも団体、協会、催事団体、民族芸術グ
ループ、博物館でもかまいません。あるいは、民族芸術や民族文化の実践
や組織的活動、学術研究に専念している方でも結構です。

さらに、私は近い将来、いつの日か、日本でIOVの会議やセミナー、ある
いは討論会をあなたに主催していただけるかどうかうかがいたいと存じ
ます。

実のところ私は、あなたの財団が、私たちの国際組織にいろいろな機会
に積極的に協力して下さることについて、話し合えるようになったことを
喜んでおります。私は、この関係が双方の組織に利益をもたらすものと考
えております。

またお便りを下さい。今後ともよろしく

敬具

アレクザンダー ファイグル
事務総長

雲南少数民族舞蹈紹介

——^{ジノ}基諾族——

1989年9月30日 於 国立大劇場

文化庁主催、芸術祭前夜祭に於いて

数あるジノ一族の舞踊の中から

竹竿舞

竹筒舞

太鼓の踊り 等を紹介した。

現地ジノ一族の酋長、何貴氏よりメッセージが届き、当日舞台上で黛節子よりそのメッセージを観客に紹介した。

まさにライス・ロード（稲米之路）の舞踊家から直伝の舞踊紹介披露であった。

ジノ一族について

ジノ一族は中国雲南省シーサンパンナの基諾山（攸楽山）周辺に住み、人口は1万人余り、固有の言語を持つが文字はなく通常は漢文を使用する。祖先崇拝が盛んで山川草木皆靈魂を持つと信じている。父系制の大家族で家族全員が大きな竹楼（竹製の高床式住居）に住むが、最近では核家族化が進み小家庭毎に分居し、家計も別にすることが多くなったという。



ジノ一族の衣裳をつけた黛 節子



平成元年9月30日 国立大劇場
民族舞踊の魅力
日本の中のアジア

平成元年9月30日[土]午後6:00開演

主催 文化庁芸術祭実行委員会

国立劇場 大劇場

ジノ一族は主として農業に従事し、茶をよく生産する。攸楽山は有名な普洱茶の産地の六大茶山の一つとして名高い。またこの地区ではバナナやボケ等の亜熱帯作物の生産が盛んである男子は精巧な竹製品を作り、狩猟を好む。婦女は綿を紡ぎ麻を編む。薬草等の採集もする。彼等は皆子供のときから歌うことを学び、即興で曲に合せてその時の情感を読込んだ詞をつくることができる。祭日ごとに集って年長者は興に乗って歌を歌い、若者は心の赴くままに舞いを舞う。太鼓舞はこの時の代表的な歌舞である。

ジノ一族に最初に逢ったのは1985年4月、シーサンパンナの水かけ祭（タイ族の正月に行われる行事）の時であった。正月といえば寒いのが日本人の感覚だが、このシーサンパンナでは、むしろ暑くて寒暖計は毎日38度以上であった。

ここシーサンパンナでジノ一族の若者達（正月の休みで山から降りて来た）から直接踊りを教えてもらった感激は忘れられない。私はどういふものかジノ一族に惹かれる。二度目は1987年ジノ一族の村落を訪れる事が出来て再び稽古をすることが出来た。今年も多分又シーサンパンナを訪れタイ族の舞踊文化を取材する予定である。従って又ジノ一族に逢える時間がありそうである。

愛的足跡

これは1989年9月北京に於いて、十六の少数民族の舞踏を舞台化して上の様な題名のもとに発表された。

中国舞踏家協会雲南分会理事周培武氏からの手紙を併せて掲載いたします。



十六个民族的演员为您演出

Performers from sixteen different nationalities take part in this evening party

周先生からのお手紙

黛 節子先生 こんにちは

年賀状をいただいととてもうれしいです。久し振りですね。昨年、雲南省では第一回芸術祭が行われました。

おそらく客観的な原因で訪中時期をずらされたのだと思いますが、私たちのいる昆明は平静で何の変ったこともありません。そのために私たちは2年間会えませんでした。ぜひお目にかかりたいです。今年昆明に来られたらぜひ我が家に御案内し民族色を加味した料理をごちそうしたいと思います。その時にはいろいろお話をしながら先生の新作を觀賞したいと思っています。

雲南省の芸術祭で私や馬文静さんが出品した“愛の足跡”（雲南少数民族の婚姻や恋愛に取材した大型の歌舞）は成功しました。昨年の北京での第二回芸術祭と国慶（建国）40周年祝賀会でも専門家の好評を得ました。プログラムをお送りします。昆明に来られたときに見ていただき、御意見もお聞きしたいと思います。

先生は度々雲南に来られて、少数民族の舞踊に深い理解と愛情をお持ちのことと拝察いたします。私たちは昆明と東京で両国の芸術家が共に同じ舞台に立ち、雲南の民族歌舞芸術を紹介することを希望します。それによって両国の雲南省歌舞団、並びに黛民族舞踊団の文化交流が促進されるのだと思います。いかがですか？



明日私は文山壮族苗族自治州に行き、2月下旬か3月上旬に戻ります。今年の7、8月頃に全国の少数民族の一人舞、二人舞、三人舞の競技が昆明で催されるようです。そのあとの10月頃に雲南に来られればいろいろなものがごらんになれます。御連絡いただければ私たちと一緒に公演活動ができます。昆明で更に多くの人々に日本と先生の民族舞踊を見せてあげてください。

御返事をお待ちしています。

早くお会いできますように

先生の芸術が実り豊かでありますように

私の知っている皆様によろしく

遠方の友 周培武

1990年1月10日

星・さまざま

1989年8月8日、9日

8月8日、9日の両日、黛アートサロンに於て民族舞踊文化に関する研究会が行われました。内容は次のとおりです。

タイ族（雲南少数民族の一つ）の二十七宿 藤原明人

日本の棚機（たなばた） 黛 節子

糸の話 七夕と染織 ―古典文学より― 道明新一郎

民族舞踊 銀河の情緒

一風の盆より― 越中おわら 黛 節子 他

越中富山八尾地方では風の盆とよんで毎年九月一日、二日三日、町をあげて踊られる盆踊りです。

黛節子はこの盆踊りをもとに男女の出会い、別れを日本的情緒纏綿とした中に表現してみました。

七夕の二星の表現に尤も相応しい民族の舞踊といえましょう。



道明新一郎氏



研究会の会場風景



一風の盆より―越中おわら 黛 節子

東京バプテスト教会

1989年3月17日

東京バプテスト教会の各国の婦人の皆様50名が、「日本を知る」というテーマで、いろいろ学んでいらっしゃる会合を今回は黛アートサロンで行われました。日本の民族舞踊、江戸舞踊について、黛理事長の踊りの歴史と実技。その他、衣裳など時代考証を交えての説明にミセス、モック先生から「大変すばらしい演技と説明に生徒たちは目を輝かせていました。」と絶賛の御礼の言葉を頂きました。

曲目は や、こ踊り
千鳥節
オテモヤン
水辺の舞人
はねこ踊り



ミセスモック先生と黛理事長



黛理事長と歓談する婦人たち



学習熱心な婦人たち

第1回 TAMARIBAサロン

1989年7月4日

——バリ島の宮廷舞鑑賞——

郡司正勝先生（早大名誉教授）のご好意により現地で御自身、収録なさった『バリ島民族舞踊』のビデオ映写会を開催。会終了後、先生を囲んでのおしゃべり会も花が咲いてたのしい一時をすごすことができ、好評でした。



郡司正勝先生

第2回 TAMARIBAサロン

1989年10月26日

——墨との対決——

原田 雅郎（書家）
山田 三耀（画家）
のお二人によって、墨との対決という会を開催致しました。
内容は、
墨の製法
松煙・油煙の違い
墨の重要性
古墨（中国墨）の歴史
作品制作のため、
観賞品として
気候風土と墨、
日本・中国以外の諸国でのこと、
書、墨絵の制作にともなう苦心
失敗談など面白くさかせていただきました。



原田雅郎 作



山田三耀 作

第3回 TAMARIBAサロン

1989年12月6日

——フラワーリース展——

黛理事長はかねてから妙高・赤倉の、雄大な自然の美しさを日本のスイスとたたえていたがこの度、黛の友人である赤倉の内海陽子さんをお招きして、フラワーリース展を開催しました。



遠山次長と黛理事長

森のしじまの中に
たたずむ木たちの慶びを
野の花々のさゆらぎを
枝々をめぐる風の微笑を
わかちあいたい、
共にあなたと—



内海陽子 作

文化庁遠山次長もお招きして、盛大な会が出来ました。手づくりケーキとTEAをいただきながら自然の美しさ、室内装飾にも都会にない美しさと皆様より好評でした。

賛助会員御芳名

(アイウエオ順敬称略)

平成2年3月31日現在

特別賛助会員

有田 平
大野 勝三

賛助会員

犬丸 直
井浦 芳信
石塚 保
石川 隆一
稲田 とし子
今村 昌平
池永 好子
入方 宏
海野 麻次
臼井 潔子
江戸 英雄
遠藤 和良
遠藤 照子
遠藤 昌孝
奥山 素章
帯谷 瑛之助
小田部 綾子
小田部 康伊
岡本 春雄
大井 昭伍
岡田 茂
梶沢 佳乃子
菅 寿子
神田 千代
亀岡 重則
杵屋 佐登代
北川 太一
木下 純貫
倉島 攝子

桑田 美弥子
見学 玄
小松 万里子
佐治 敬三
鹿海 信也
砂村 采女
関野 智子
武田 章子
武田 悦子
竹崎 宇吉
竹中 広夫
多田 侑史
徳山 素琴
橋本 英子
蓮沼 力太郎
長谷川 房子
林 三根子
平野 理定
藤本 佳子
藤原 明人
藤原 としえ
本田 安次
穂苅 甲子男
細野 美智子
牧原 満男
三橋 達也
森 武雄
安田 敬一
矢倉 三郎
山口 道子
山折 哲雄
吉田 正
冷泉 貴実子
藁谷 正子

財団の平成2年度の予定

8月30日～9月9日

雲南省歌舞団

11月

ライス・ロード(稲米之路)の舞踊家たち招請
雲南省昆明、思茅、シーサンパンナ等におもむき、
タイ族、ジノ族、プーラン族、アイニー族、ラ
フ族等の舞踊文化を取材。

※

IOVの招待により、黛節子は日本民族舞踊及び舞
踊文化に関する講演の為ウィーンにおもむく。

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、わが国伝統の民族舞踊を舞
台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交
流を行うことを目的として、昭和六十一年三月文部大臣から設
立を許可された団体です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公
演をはじめ、地方巡回公演を活発に行ってひろく一般にこれを
紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を
目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家の
ための研究会、研修会等を開催して創作活動を奨励すると共に
技能の向上を図り、(3)日本各地および東南アジア諸国の民族芸
能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存
して一般にこれを提供し(将来は資料館を設置して一般の利用
に供することを計画しています)、また、(4)世界各国にはそれぞ
れ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら
の舞踊団との交流や、東南アジア諸国の民族芸能伝承者たちと
の交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につ
とめ、(5)民族舞踊、民俗芸能に関する資料および研究成果等の
出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成の
ため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申
しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたし
ております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として
育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各
界の方々の御支援を心からお願い申しあげる次第です。

つきましては、当財団には下記の通り賛助会員規程を設けて
おりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支
援を賜りたく、お願い申しあげる次第です。

財団法人黛民族舞踊文化財団賛助会員規程

一、賛助会員とは、この法人の主旨目的に賛同して入会くださ
った個人・法人(団体)の方々の名称です。

二、会費寄付の内容は下記の通りです(但し、年間会費として
扱わせていただきます)。ア、個人の場合

個人会員 五千円以上

特別個人会員 十万円以上

イ、法人の場合

法人(団体)会員 十万円以上

特別法人(団体)会員 百万円以上

三、賛助会員の特典

ア、特別会員(個人・法人)

1 年一回以上公演会の切符御一名様御招待

2 「財団の宴」など種々の行事に御招待

イ、会員(個人・法人)

1 年一回以上公演会の切符御一名様御招待

なお、御入会くださいます方は、賛助会員会費寄付申込書に
御記入の上、御返送いただきたく存じます。賛助会員会費寄付
申込書は、当財団宛て、御請求くださいませ。領収書は、銀行
にお振り込み下さいました後、お送り申し上げます。

民族舞踊文化 No. 3

1990年4月26日発行

〒107 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F Tel 03-583-3633

財団法人 黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE
MAYUZUMI BLD. 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATO-KU, 107, TOKYO

発行人 黛 節子

編集人 大野明良